

2025 年度 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科
博士後期課程 入学試験問題（冬季）看護科学域 筆記（看護専門）
出題の意図

問題 1. 看護倫理・管理学分野

看護倫理・管理学の博士後期課程において求められることは、倫理的課題を言語化し、ロジカルに述べる能力である。日本に在住する外国人や日本を訪れる外国人を受け入れる医療機関の体制整備には様々な倫理的課題を内包しており、それに気づける倫理的感受性と倫理的課題の解決に向けてその方略を言語化できる倫理的意志決定能力を問うた。以上、博士後期課程で研究する上で、必要な倫理・管理的視点、言語化及び思考能力を評価するために出題した。

問題 2. リプロダクティブヘルス看護学分野

保健医療分野の研究者として、特定の条件が提示された際の研究の計画、設定できる方法とその根拠、活用するデータに対する理解や全体的な論述力を評価するために出題した。

問題 3. 小児看護学分野

小児看護学分野で学修するために、子どもの発達について、理論的な知識を有し、人に説明できる力、博士前期課程で習得済みの研究方法について、その手法の特徴を理解し、手法の強みを人に説明できる力を評価するために出題した。

問題 4. 成人看護学分野

博士後期課程で主体的に研究が遂行できる力を確認するため、研究方法の選択、及び方法についての考えを論じる問題を出題した。また、研究を遂行するためには論理的思考が必要であり、それを記述することも求められる。そのため、回答者の考えを論じる力を評価するために出題した。

問題 5. 療養生活支援分野

日本においては、労働人口の減少が見込まれ、高齢者の就労、社会活動の機会を推進している。これらの社会的課題への問題意識、説明力、また、研究計画を具体化する能力を評価するために出題した。

問題 6. 地域精神看護学分野

社会情勢や労働者を取り巻く労働環境を踏まえて、労働者のメンタルヘルスに関する課題をメンタルヘルスリテラシーの観点から分析的に思考できる能力、現状から課題を抽出する能力、課題からリサーチクエスチョンを導き、研究を通して解決するための研究能力を評価するために出題した。

問題 7. 公衆衛生看護学分野

テーマを設定した小論文として、公衆衛生看護学分野の範囲である健康危機管理に関する研究を一つ取り上げ、その研究の概要と実践への適用について、自身の考えも含めて記述することによって、専門分野の知識に基づいた論理的思考力、文章構成力、文章表現力を評価するために出題した。

問題 8. 助産学分野

母子同室が母親とその児へ与える影響についての基本的な知識と、研究的な視点でその事象を解釈し、適切なアウトカム指標を設定できる能力、研究を行う上でのバイアスを理解し軽減する方法について論述できる能力を評価するために出題した。